

令和5年度 ブルーベリー病害虫防除暦

ながのブロック

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名・調合法	薬剤量	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項
3月下旬	M2	水	90 ℓ	10 倍	100 ℓ	カイガラムシ 越冬病害虫	休眠期	—	○収穫後から春にかけて園内の乾燥防止対策として3年に1回を目安に 木材チップやもみ殻を厚く(10cm位)敷き詰める。 ○降雨が帯水しやすい圃は排水路を作る。
発芽前		展着剤(マイリノー)	5 ml						
月 日		石灰硫黄合剤	10 ℓ						

★4月下旬～5月中旬頃にコガネムシの幼虫対策として、ダイアジノン粒剤5(収穫14日前まで)を10a当り6kg散布する。

生育期間中から収穫終了までは、下記の薬剤から散布薬剤を選択する。尚、年間使用回数・収穫前日数を遵守する。
10a当り散布量は150～200ℓを目安にし、水100ℓ当り展着剤(マイリノー)5mlを加用する。

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	使用薬剤名	薬剤量 (水100ℓ 当り)	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項
生育期間 (5月上旬～ 収穫前) 月 日	1	サイアノックス水和剤	100 g	1,000 倍	150～200 ℓ	ドクガ マイマイガ (カイガラムシ)	収穫30日前まで	2回以内	○収穫前日数に注意して使用する。発生害虫の幼虫が葉やつぼみを食害する。 ○マイマイガは5月上旬中旬が防除適期となる。
	11	バイオマックスDF	50 g	2,000 倍	150～200 ℓ	シャクトリムシ類 ケムシ類 ハマキムシ類	収穫前日まで	—	○BT剤(生菌)のため、幼虫が大きくなると効果が劣るので発生初期より使用する。
	1	ベンレート水和剤	33 g	3,000 倍	150～200 ℓ	ハルデンシア葉枯病 斑点病	収穫7日前まで	1回	○ハルデンシア葉枯病: 葉に褐色の斑点を生じ、直径3cmに達する輪紋状病斑 が現れる。
	11	ストロビードライブフロアブル	33 g	3,000 倍	150～200 ℓ	斑点病 灰色かび病	収穫14日前まで	2回以内	○斑点病: 葉に褐色の不整形な病斑が見られる。 ○灰色かび病: 風雨の後に灰色のカビが発生する。
	M4	オーソサイド水和剤80	200 g	500 倍	150～200 ℓ	すす点病、斑点病 灰色かび病	収穫21日前まで	2回以内	
	29	フロンサイドSC ※土壌灌注で使用	200 ml	500 倍	150～200 ℓ	白紋羽病	収穫21日前まで	1回	○白紋羽病: 根元に白いカビ(糸状菌)がみられ、樹勢が衰え枯死してしまう。 土壌伝染するため対策としてフロンサイドSCの土壌灌注を行う。

生育期間 及び 収穫期間中 月 日	3	アディオフロアブル	50 mℓ	2,000 倍	150~200 ℓ	オウトウショウジョウバエ	収穫前日まで	2回以内	○オウトウショウジョウバエは過熱の果実があると発生しやすいので、収穫を遅れないように進める。 ○収穫期間中の薬剤散布は果粒溶脱防止のため展着剤を加用しない。
	4	㊞ モスピラン顆粒水溶剤	25 g	4,000 倍	150~200 ℓ	オウトウショウジョウバエ	収穫前日まで	1回	
	3	㊞ スカウトフロアブル	33 mℓ	3,000 倍	150~200 ℓ	オウトウショウジョウバエ	収穫前日まで	2回以内	
	5	ディアナWDG	10 g	10,000 倍	150~200 ℓ	オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類	収穫前日まで	2回以内	
	13	㊞ コテツフロアブル	50 mℓ	2,000 倍	150~200 ℓ	オウトウショウジョウバエ イラガ類	収穫前日まで	3回以内	
	28	エクシレルSE	20 mℓ	5,000 倍	150~201 ℓ	オウトウショウジョウバエ ケムシ類	収穫前日まで	3回以内	
	28	フェニックスフロアブル	25 mℓ	4,000 倍	150~200 ℓ	ケムシ類	収穫前日まで	2回以内	

※ブルーベリーは葉の食害を受けると樹勢が衰弱しやすい特徴を持っている。食害により大きな被害を受けた場合は翌年度の花芽形成や樹冠拡大に影響が出る。

このため、落葉期まで葉を害虫からしっかりと守ることが重要である。

※収穫期間中は鳥類による被害を受けやすいので、防鳥網の活用や防鳥糸を張るなどの対策を行う。